

福井県医師会

だより

第569号 平成20年(2008)11月



錦繡の秋 大瀧神社

福井市 吉村 信

表紙写真説明：錦繡の秋 大瀧神社

福井市 吉村 信

ある秋晴れの朝、遠方の山巒がはっきり見えるのを確認すると、予てからの予定通り、越前市粟田部岡太の大瀧神社に向け、大銀杏の写真を撮るべく車を走らせた。昨夜来の雨で大気中の塵が落ちて澄み切った境内の空気は撮影に最適で、雨過天晴の空をバックに、旭日に輝く黄金色の銀杏、真紅の楓、常盤の杉の大木は各々の美を誇示するが如く聳え立っていた。

静寂の境内飾る綾錦

醫 縫 録

研修医確保のために

日本耳鼻咽喉科学会福井県地方部会 会長
福井大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授

藤 枝 重 治



「福井県の医療のために全力を尽くします」

福井大学医学部医学科の入試面接では、ほとんどの受験生がこのように訴えます。とりわけ推薦入試や福井県在住の受験生はこの点を強調します。都会の受験生や他大学卒業後の再受験者は巧みな言葉を操りますが、ボソボソとあか抜けない喋り方で冒頭の言葉をいう福井県出身者に、どうしても私は好印象を持ってしまう。入試はとても神聖なので、面接も公平にしておりますが、この受験生なら私たちと一緒によく働いてくれそうだと感じると私の点は自然と甘くなってきてしまいます。

冒頭の言葉を強調し合格した福井県出身者を含めた学生たちは、5年生になるとポリクリ(病棟実習:現在ではクリニカルクラークシップと呼びます)で、各科をまわることになります。もちろん我々の耳鼻咽喉科にもまわってきます。毎週水曜日自分の回診後、その週にまわっている県内出身者学生に、

「君はスーパーローテートをどこでしようと思っているの?」と尋ねると、

「東京か横浜、もしくは京都のいずれかでスーパーローテートしたいと思っています」

「へえーそうなんだ。スーパーローテート後の後期研修は、どうするの?」質問する私。

「将来は福井に帰ろうと思いますが、そのままスーパーローテートの病院か都会の病院で働こうと思っています」

「ふーん。それはその病院の関連する大学等で後期研修を行うということ?」

「いいえ、あまりよく考えていませんが…」答える学生。

「じゃあ質問を変えりけど、都会で研修した後、福井に戻ってきて簡単にあなたが気に入る病院で働ける?」たたみかける私。

「何とかかなと思っていますが…。どこもなければ開業してもよいです」だんだん暗い顔になる学生。

「そんなんで患者さん、君の所に来てくれる? 現実にはあなたの町の近くにそのようにしてパッと開業した医院があったら、君や君の家族は受診するの?」こちらのペース。

「いいえ、受診しません」

「大体、田舎の福井なら、大学や大きな病院で働いて良い評判を得た先生が開業すると患者さんも付いていりし、口コミでさらににはやるんじゃないの?」得意になる私。

「そのとおりです。じゃあ、大学やそのような病院に戻ってきます」一応反論する学生。

「あなたが教室を主宰していたり、部長をしていたら、すぐにそのような人を採用する? もし採用しても自分たち

と一緒に働いてきた仲間と都会から帰ってきた先生とどちらを重用する?」

「優秀だったら採用しますし、優秀だったら都会の先生を重用します」

「そう、そのとおり。でもどうやって優秀かどうか判断するの? さらに聞くけど、あなたはどのような優秀な先生になれるの? 優秀な先生はどこにいても優秀な医師になれると思うけど」うつむく学生。

「ここに残って働こうよ。頑張れば、外国でも癌センターでも都会の有名病院に2年間ほど出張に行かせてあげるよ。多くの教授がそのように考えているよ。お金を稼げるようになって都会に住んだ方が絶対に楽しいと思うよ」どうだ学生。

「その通りですね」もうひと押しだ。

「ここに残ってがんばろうよ。福井県内の多くの先生が君を必要としているよ。これも結婚と同じだって。望まれる病院に行った方が、来てもいいよという病院よりも幸せになると思うけど」

「そうですね。よくわかりました」よっしゃ、これでおとした。

しかし半年後、マッチングの結果を見ると、おとしたつもりの学生の何人かは福井県内のスーパーローテートに入っていない。

「でも、7割の県内出身者は確保したし、まあOKだ」と不満ながら一応納得する私でした。

このようにして毎年、毎年のマッチングを迎えています。私のみならず、多くの大学の教官が似たり寄ったりの勧誘をしています。私の言葉で7割の県内出身者が残ってくれた訳ではないことは十分に承知していますが、少しは効果があったと思わないとやっていられません。今年もまた始めています。昨年、一昨年の2年間、本当は上田前病院長の尽力で30人台の確保をしています。

さて最後に、本年度から卒前臨床医学研修として、7週間県内の多くの病院に本学の学生がお世話になりました。どうもありがとうございました。学生は、皆様方の温かいご指導とご配慮に深く感謝しているとともに、とても喜んでいました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。また来年もどうぞよろしく願いいたします。そしてその時には、どうぞ次の一言をお願いします。

「国家試験合格後、福井でがんばろうよ」

皆様と一緒に後継者をつくりましょう。そのためには、皆様のさらなるご協力が必要なのです。